

様式3

平成18年度 傾斜的研究費(特定)(全学分)(戦略分・公募分) 研究報告書

研究テーマ区分 ①都市形成に関わる研究 ②特徴ある教育プログラム開発をめざす研究

研究課題名	イギリス都市における公共的空間の発展と政治—ジョン・ブライトによる政治経済構想と活動		
研究者または研究代表者名	所属部局名		職位
岩間俊彦	経営学系		准教授
研究実績の概要 (600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)			
<p>本研究は、19世紀イギリス都市の公共的空間の発達を、政治経済をめぐる運動や口論の交換・表象といった点から分析した。同時代のイギリス都市は、新聞等の定期刊行物に代表されるメディアによって公論が醸成され、様々な結社が設立され、そして政治家や政治運動家が様々なレトリックやジェスチャーを用いて民衆の高揚をはかり世論を発信する公共的な空間であった。本研究では、同時代の政治指導者かつ国会議員でもあったジョン・ブライト(1811-1889)の活動や言説の分析を通じて、都市の公共的空間における政治的活動について考察する。</p> <p>本研究では、まず、ジョン・ブライトに関する研究サーペイと刊行史料の確認・整理を行った。その結果、ブライト研究は、彼の主要な支持者であり政治的基盤でもあった中産諸階級との関係を、モラル・階級・帝国・コスモポリタニズムといった点から再検討すべきこと、また、彼の政治経済に関する着想や主張について、その起源を急進主義だけでなくホイッグやトーリーの政治家等にも求めるべきことも示した。さらに、英国図書館デノジョン・ブライトに関する出版物(彼自身によるもの、彼の演説等を編纂したもの、ブライトの発言や見解に対応するもの、ブライトの伝記)について調査を行い、ブライトが政治活動を開始した当初(1830年代)から1880年代にかけて、ブライト自身と出版物との関わりかたが明確に変化していることを確認した。</p> <p>以上のような結果から、申請者は、以下のような検討課題を新たに見つけるにいたった。第一に、ジョン・ブライトに関する出版物の動向を明確に把握し、出版に関する動向とブライトの政治活動や彼の政治経済に関する構想や戦略がいかに関連していたのか、という点を明らかにする必要がある。第二に、ブライトの演説や討論での発言、パンフレットにおける主張の源流について明らかにする必要があるということである。</p>			
研究発表 [雑誌論文発表、図書、学会発表等]			
著者(講演者)	論文題目(発表題目)	発表誌(発表大会名)	年月
岩間俊彦	近代イギリス都市における空間と制度的基盤—19世紀の都市史研究から	『社会経済史学』72巻4号	2006年
岩間俊彦	ミドルマン—イギリス地方都市における商業社会	第57回都市史研究会例会(第3回とらっと3研究会)、東京大学	2006年8月19日
岩間俊彦	地域社会とヴォランティア・ソサエティー—ハリファクス職工協会の事例を中心に	史学会 第104回大会 西洋史部会、東京大学	2006年11月19日